



勝山文化センター

まちづくり交流会 2026

真庭市地域おこし協力隊

中北 修



| プロローグ |

< 自己紹介 >

2024年9月1日 真庭市地域おこし協力隊 着任

- 出身地 / 香川県坂出市 うどん県 
- 経歴 / 大学卒業後 ハウスメーカー勤務
愛媛（初任地）⇒ 香川 ⇒ 岡山 ⇒ 東京
埼玉 →→ 岡山（真庭市移住）
- 趣味、特技 / 旅行

 史跡、 景觀、 温泉、 名物料理





| プロlogue |

私のテーマ

スマート農業の推進



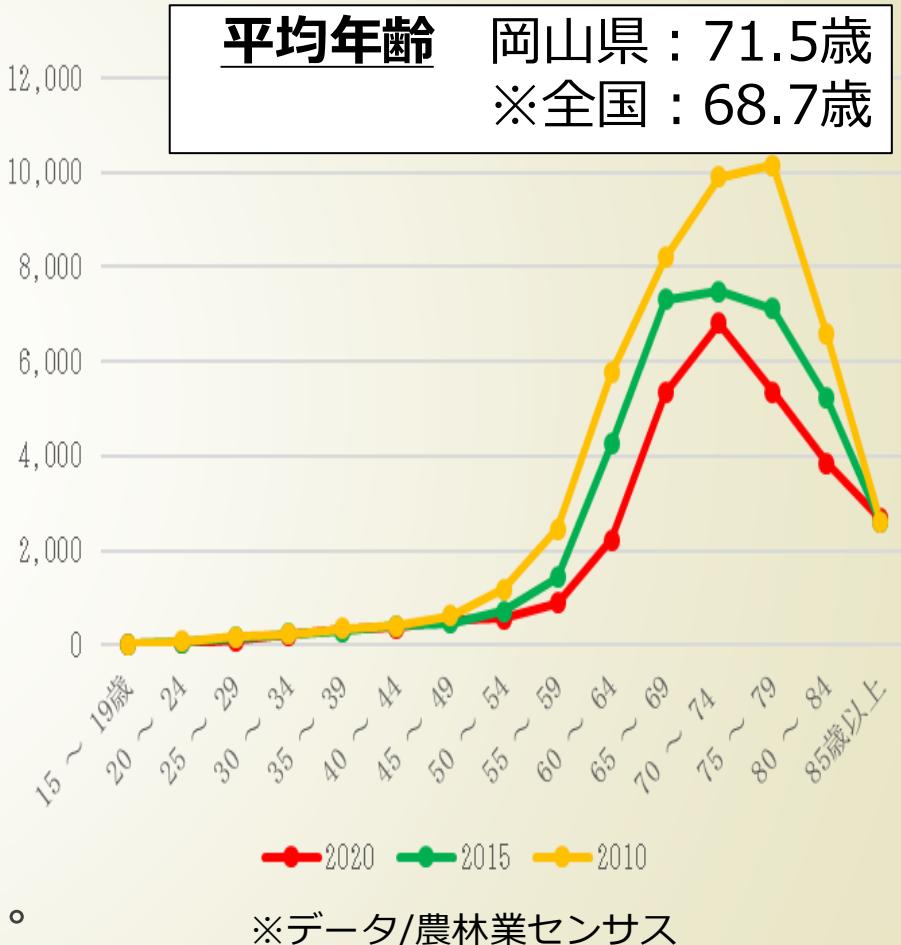
▶ 農業従事者の高齢化

農業従事者の平均年齢は『71.5歳』

人手不足や技術の伝承が難しくなっている。

スマート農業技術の導入による人手不足を緩和

また水稻のハードルを下げることで新規参入しやすくする。





| 1年目の現実 |

最初の壁

農業 3K

► きつい / 真夏の屋外作業、繁忙期の作業集中

► 汚い / 草、泥まみれ

► 危険 / 農薬、農機の取扱い

斜面作業、獣害対策





| 1年目の現実 |

勉強不足からの“失敗”



水管理の重要性

- ▶ 田面： 均平率 / 代かき精度
- ▶ 水： 浅水、深水 / 入水、排水管理
- ▶ 草： 除草、草刈り / 適切散布と管理
- ▶ 苗： 生育 / 中干しのタイミング

雑草と格闘、倒伏被害へ





| 1年目の現実 |

“支えてくれた”存在 \

► 先輩農家さん

指導はもとより一緒に考え、支援してくれる

► 行政、地域の方々

繋がりと機会をあててくれる

現場で声かけから見守ってくれる

► 家族

離れていても心の支えとなる





| スマート農業と向き合う |

思い描いていたスマート農業

▶ 作業の効率化

自動化による労働力削減（省力化）

▶ 品質向上

データに基づく管理による安定生産

▶ データの有効活用

データ収集と活用（時間、コスト）

生産性向上と持続可能





| スマート農業と向き合う |

“なぜ”上手くいかなかったのか

✗ 技術は、ネットで学べる

→ 現場の“癖”は、現地でしか学べない

✗ 機械があれば何とかなる

→ 機械は、判断の結果を実行するだけ

✗ 作業を覚えればできる

→ 判断ができないと続かない





| スマート農業と向き合う |

正解の見つけ方がわからない

- ▶何を基準に決めるのかが曖昧
- ▶変化（シグナル）に気づかない
- ▶臨機応変に対応できない

作業は出来ても

水稻の基本『判断』が出来てない





| 1年目を終えて見えたもの |

判断で“何が”見える \

【判断材料】と【タイミング】

「なぜそうするのか」

「いつ」「何をきっかけに」

判断が行われている“場所”が見える





| 1年目を終えて見えたもの |

判断が見えると起きる“変化”

判断が“属人化” ⇒ 判断が“共有”できる

【判断】



⇒ 【共有資産】



※判断基準となったデータの蓄積、比較、更新、検証

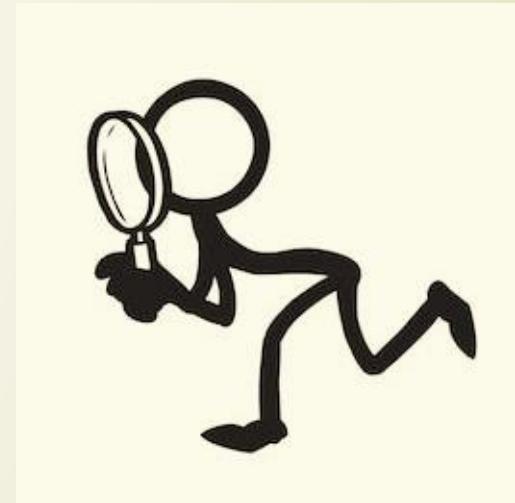


| 1年目を終えて見えたもの |

判断が見えると“無駄が減る”

人の判断（意思決定）が多い

- ▶ 同じ迷いを繰り返さなくなる
- ▶ 判断ミスの原因が特定できる
- ▶ “やらなくていい作業”が見えてくる



作業削減に根拠が付き“やらない判断”が正当化される



| 1年目を終えて見えたもの |

判断が見えると“分けられる”

作業と判断を“分ける”

- ▶ 判断： 経験者・管理者
- ▶ 作業： 未経験者・若手・委託・機械

例) 若手は「作業」から入れる

例) シニアは「判断」側に残れる

例) 外部委託・受託が成立する



「専業／兼業」「世代」「地域内外」を“つなぐ構造”になる。



| 1年目を終えて見えたもの |

人材育成プロセスを構築できる

水稻は、一年一作

- ▶ 段階的に経験を積める
- ▶ 独立までの時間短縮
- ▶ 農業の継承を拡張



“成長の見通し”と“手放せる安心”



| 1年目を終えて見えたもの |

スマート農業の本質

➡スマート農業 = 自動化 + 『判断の翻訳』



地域の“ノウハウを残す”ためのステップ



| 1年目を終えて見えたもの |

“判断”を分けると得られる効果

- ▶ 判断の「見える化・共有」
- ▶ 無駄作業・過剰作業の削減
- ▶ 人材・担い手の受入れと育成





| エピローグ |

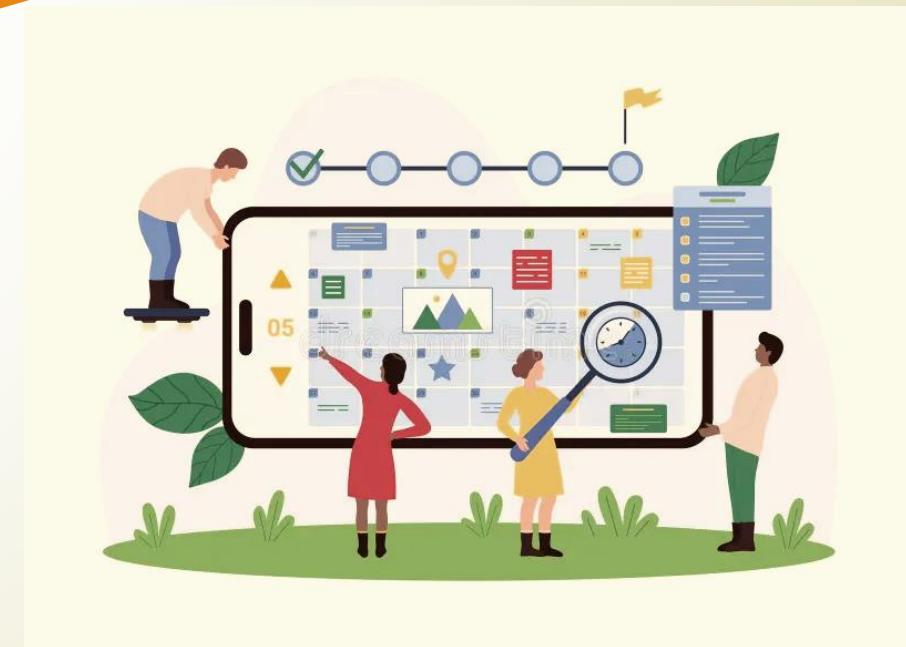
1年間で変わった自分

構想の転換点

「自分が新規就農モデルケースを示す」

『どう関わるか』

まずは『役割』を絞る





| エピローグ |

目指す水稻のかたち \

分解して品質と継続性を守る

- ▶ 個人依存からの脱却
- ▶ 継承の入口を拡張し継続させる
- ▶ 地域で組み立て、回す構造



次の世代へ 分けて、任せて、積上げる

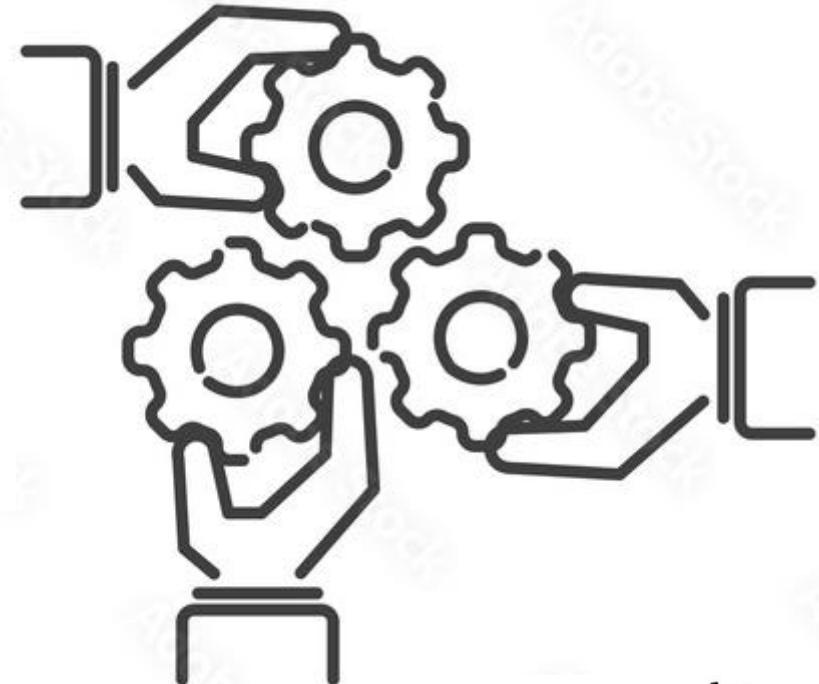


| エピローグ |

目指す水稻のかたち \

“人に頼る水稻”から“仕組みでまわす水稻”へ

農家



受託
担い手



地域





| エピローグ |

私のこれから \

- ▶ 各工程間の理解（判断）を深める
- ▶ ドローン直播、防除のスキルUP
- ▶ 他業種とのコミュニケーション強化



ドローン作業を通して地域をサポートしながら

水稻が残る仕組みにも貢献していきたいと思います



ご清聴ありがとうございました